

第三編 分析編

(分析説明)

1 分析の方法

(1) 基礎数値

平成30年度地方財政状況調査を基礎とし、必要に応じて平成29年度地方財政状況調査の数値を用いた。その他、これらの調査に含まれない数値として、平成30年度地方公務員給与実態調査の職員数、各市町村の平成30年1月1日現在及び平成31年1月1日現在の住民基本台帳人口を用いた。

(2) 平均指数の算出方法

(3) に示す方法により算出した指数、比率を基にし、それぞれ市平均・町村平均及び県平均の平均指数を算出した。

(3) 各指数の算出方法

ア 語句の説明

イ 算式に示す語句のうち、その意味は次のとおりである。なお、語句の説明及び算式の中の()又は[]内の数字は、平成30年度地方財政状況調査の表・行・列を示すものである。ただし、Sのつくものは平成29年度地方財政状況調査のものである。

- ① 一般財源(狭義) = 地方税(05・01・01) + 地方譲与税(05・02・01) + 利子割交付金(05・03・01) + 配当割交付金(05・04・01) + 株式等譲渡所得割交付金(05・05・01) + 分離課税所得割交付金(政令指定都市のみ)(05・06・01) + 道府県民税所得割臨時交付金(政令指定都市のみ)(05・07・01) + 地方消費税交付金(05・08・01) + ゴルフ場利用税交付金(05・09・01) + 特別地方消費税交付金(05・10・01) + 自動車取得税交付金・軽油引取税交付金(政令指定都市のみ)(05・11・01) + 地方特例交付金(05・12・01) + 地方交付税(05・13・01)
 - ② 一般財源(広義) = 一般財源(狭義) + 国有提供施設等所在市町村助成交付金 + 交通安全対策特別交付金 + 国庫支出金・県支出金のうち使途の特定されないもの(例えば災害復旧事業の施越事業にかかるもの) + 使用料・手数料のうち使途の特定されないもの(例えば水利権その他無体財産権の使用等に対するもの) + 寄附金のうち使途が特定されないもの + 財産収入のうち使途が特定されないもの + 繰入金のうち使途が特定されないもの(例えば財政調整基金取崩額) + 諸収入のうち使途が特定されないもの(例えば預金利子) + 繰越金のうち繰越事業に充当すべきものを除いた純剰余金 + 地方債のうち、臨時財政対策債等〔05・33・03 + 05・33・05〕
 - ③ 経常一般財源 = 一般財源(広義)のうち毎年連続して恒常的に収入されるもの、すなわち、普通税 + 地方譲与税 + 普通交付税 + 入湯税 + 事業所税 + 利子割交付金 + 配当割交付金 + 株式等譲渡所得割交付金 + 地方消費税交付金 + ゴルフ場利用税交付金 + 特別地方消費税交付金 + 自動車取得税交付金・軽油引取税交付金(政令指定都市のみ) + 地方特例交付金 + 交通安全対策特別交付金 + 国有提供施設等所在市町村助成交付金 + 経常的に収入される使用料・財産収入及び諸収入のうち使途の特定されないもの等〔05・33・05〕
 - ④ 経常的経費 = 〔14・23・04 + 14・23・05〕
 - ⑤ 臨時的経費 = 〔14・23・02 + 14・23・03〕
- 経費の科目又は経費の性質による経常的・臨時的の経費区分
- ⑥ 自主財源 = 地方税(04・01・01) + 分担金及び負担金(04・01・25) + 使用料(04・01・29) + 手数料(04・01・37) + 財産収入(04・02・20) + 寄附金(04・02・26) + 繰入金(04・02・30) + 純繰越金(04・02・32) + 諸収入のうち受託事業収入、収益事業収入及び一部事務組合配分金を除いたもの(04・02・34 - 04・02・39 - 04・02・42 - 04・02・44)

イ 算式

〔第1表 一般指標〕

- ① 人口対前年度増加率 = $\left(\frac{\text{平成31年1月1日現在住民基本台帳人口}}{\text{平成30年1月1日現在住民基本台帳人口}} - 1 \right) \times 100$
- ② 経常収支比率 = $\frac{\text{経常経費充当一般財源等額(14・23・05)}}{\text{経常一般財源等収入額(05・33・05)+減収補てん債特例分(05・31・01)+臨時財政対策債(05・32・01)}} \times 100$
 以下、経常一般財源等収入額+減収補てん債特例分+臨時財政対策債 … A とする。
- (ア) 人件費 = $\frac{\text{経常人件費充当一般財源等(14・01・05)}}{A} \times 100$
- (イ) 物件費 = $\frac{\text{経常物件費充当一般財源等(14・03・05)}}{A} \times 100$
- (ウ) 維持補修費 = $\frac{\text{経常維持補修費充当一般財源等(14・04・05)}}{A} \times 100$
- (エ) 扶助費 = $\frac{\text{経常扶助費充当一般財源等(14・05・05)}}{A} \times 100$
- (オ) 補助費等 = $\frac{\text{経常補助費等充当一般財源等(14・06・05)}}{A} \times 100$
- (カ) うち一部事務組合に対するもの = $\frac{\text{経常補助費等充当一般財源等(14・07・05)}}{A} \times 100$
- (キ) 公債費 = $\frac{\text{経常公債費充当一般財源等(14・09・05)}}{A} \times 100$
- (ク) 経常的繰出金 = $\frac{\text{経常的繰出金充当一般財源等(14・15・05)}}{A} \times 100$
- ③ 公債費負担比率 = $\frac{\text{公債費充当一般財源等(13・32・11)}}{\text{臨時的一般財源等(05・33・03)+経常的一般財源等(05・33・05)}} \times 100$
- ④ 標準財政規模(00・01・08) = $\frac{\text{標準税収入額等(00・01・07)(注1)+普通交付税(04・01・21)+臨時財政対策債発行可能額(00・01・09)}}{\text{標準財政規模}}$
- (注1) 標準税収入額等
- 政令指定都市を除く市町村
 (基準財政収入額-市町村民税所得割における税源移譲相当額の25%-地方譲与税-交通安全対策特別交付金-地方消費税交付金に係る引き上げ分の25%)
 $\times \frac{100}{75} + \text{地方譲与税} + \text{交通安全対策特別交付金}$
- 政令指定都市
 (基準財政収入額-市町村民税所得割における税源移譲相当額の25%-地方譲与税-分離課税所得割交付金-道府県民税所得割臨時交付金-交通安全対策特別交付金-地方消費税交付金に係る引き上げ分の25%)
 $\times \frac{100}{75} + \text{地方譲与税} + \text{交通安全対策特別交付金}$
- ⑤ 地方債現在高比率 = $\frac{\text{地方債現在高(33・85・09)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑥ 債務負担行為比率 = $\frac{\text{債務負担行為に基づく当該年度支出額(37・05・11)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑦ 債務負担行為残高比率 = $\frac{\text{債務負担行為翌年度以降支出予定額(37・05・02)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑧ 積立金現在高比率 = $\frac{\text{積立金現在高(29・06・04)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑨ 財政調整基金等残高比率 = $\frac{\text{財政調整基金現在高(29・06・01)+減債基金現在高(29・06・02)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑩ 実質収支比率 = $\frac{\text{実質収支(02・01・05)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑪ 収益事業収入比率 = $\frac{\text{収益事業収入(04・02・42)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑫ 経常一般財源等比率 = $\frac{\text{経常一般財源等(05・33・05)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑬ 将来の財政負担額比率 = $\frac{\text{地方債現在高(33・85・09)+債務負担行為翌年度以降支出予定額(37・05・02)-積立金現在高(29・06・04)}}{\text{歳入総額(02・01・01)}} \times 100$

〔第2表 人口1人当たり指数〕

① 歳入

$$(ア) \text{ 歳入合計} = \frac{\text{歳入総額}(05\cdot33\cdot01)}{\text{平成31年1月1日現在住民基本台帳人口}}$$

以下、平成31年1月1日現在住民基本台帳人口… B とする。

$$(イ) \text{ 各歳入項目} = \frac{\text{各歳入項目}}{B}$$

$$(ウ) \text{ 一般財源} = \frac{\begin{aligned} &\text{一般財源(狭義)}[\text{地方税}(05\cdot01\cdot01)+\text{地方譲与税}(05\cdot02\cdot01)+\text{利子割交付金}(05\cdot03\cdot01) \\ &+\text{配当割交付金}(05\cdot04\cdot01)+\text{株式等譲渡所得割交付金}(05\cdot05\cdot01)+\text{分離課税所得割交付金}(05\cdot06\cdot01) \\ &+\text{道府県民税所得割臨時交付金}(05\cdot07\cdot01)+\text{地方消費税交付金}(05\cdot08\cdot01) \\ &+\text{ゴルフ場利用税交付金}(05\cdot09\cdot01)+\text{特別地方消費税交付金}(05\cdot10\cdot01) \\ &+\text{軽油引取税・自動車取得税交付金}(05\cdot11\cdot01)+\text{地方特例交付金}(05\cdot12\cdot01)+\text{地方交付税}(05\cdot13\cdot01)] \end{aligned}}{B}$$

$$(エ) \text{ 経常一般財源} = \frac{\text{経常一般財源等}(05\cdot33\cdot05)}{B}$$

$$(オ) \text{ 特定財源} = \frac{\text{特定財源}(05\cdot33\cdot02+05\cdot33\cdot04)}{B}$$

$$(カ) \text{ 経常的収入} = \frac{\text{経常的収入}(05\cdot33\cdot04+05\cdot33\cdot05)}{B}$$

$$(キ) \text{ 自主財源} = \frac{\begin{aligned} &\text{自主財源}[\text{地方税}(04\cdot01\cdot01)+\text{分担金及び負担金}(04\cdot01\cdot25)+\text{使用料}(04\cdot01\cdot29)+\text{手数料}(04\cdot01\cdot37) \\ &+\text{財産収入}(04\cdot02\cdot20)+\text{寄付金}(04\cdot02\cdot26)+\text{繰入金}(04\cdot02\cdot30)+\text{純繰越金}(04\cdot02\cdot32)+\text{諸収入}(04\cdot02\cdot34) \\ &-\text{受託事業収入}(04\cdot02\cdot39)-\text{収益事業収入}(04\cdot02\cdot42)-\text{一部事務組合配分金}(04\cdot02\cdot44)] \end{aligned}}{B}$$

② 歳出

$$(ア) \text{ 歳出合計} = \frac{\text{歳出総額}(14\cdot23\cdot01)}{B}$$

$$(イ) \text{ 各目的別歳出項目} = \frac{\text{各目的別歳出項目}}{B}$$

$$(ウ) \text{ 各性質別歳出項目} = \frac{\text{各性質別歳出項目}}{B}$$

$$(エ) \text{ 義務的経費} = \frac{\text{義務的経費}[(\text{人件費}(14\cdot01\cdot01)+\text{扶助費}(14\cdot05\cdot01)+\text{公債費}(14\cdot09\cdot01))]}{B}$$

$$(オ) \text{ 経常的繰出金} = \frac{\text{経常的繰出金}(14\cdot15\cdot04+14\cdot15\cdot05)}{B}$$

$$(カ) \text{ 経常的経費} = \frac{\begin{aligned} &\text{経常的経費}[\text{人件費}(14\cdot01\cdot01)+\text{扶助費}(14\cdot05\cdot01)+\text{公債費}(14\cdot09\cdot01)+\text{物件費}(14\cdot03\cdot01) \\ &+\text{維持補修費}(14\cdot04\cdot01)+\text{補助費等}(14\cdot06\cdot01)+\text{投資及び出資金・貸付金}(14\cdot14\cdot04+14\cdot14\cdot05) \\ &+\text{繰出金}(14\cdot15\cdot04+14\cdot15\cdot05)] \end{aligned}}{B}$$

$$(キ) \text{ 投資的経費} = \frac{\text{投資的経費}(14\cdot17\cdot01)}{B}$$

$$(ク) \text{ 普通建設事業費のうち補助事業費} = \frac{\text{補助事業費}(13\cdot13\cdot01+13\cdot15\cdot01+13\cdot19\cdot01)}{B}$$

(国直轄事業負担金、受託事業費のうち補助事業費を含む)

$$(ケ) \text{ 普通建設事業費のうち単独事業費} = \frac{\text{単独事業費}(13\cdot14\cdot01+13\cdot16\cdot01+13\cdot17\cdot01+13\cdot20\cdot01)}{B}$$

(県営事業負担金、同級他団体施行事業負担金、受託事業費のうち単独事業費を含む)

③ その他

$$(ア) \text{ 積立金現在高} = \frac{\text{積立金現在高}(29\cdot06\cdot04)}{B}$$

$$(イ) \text{ 財政調整基金現在高} = \frac{\text{財政調整基金現在高}(29\cdot06\cdot01)}{B}$$

$$(ウ) \text{ 地方債現在高} = \frac{\text{地方債現在高}(33\cdot85\cdot09)}{B}$$

$$(エ) \text{ 債務負担行為未払残高} = \frac{\text{債務負担行為翌年度以降支出予定額}(37\cdot05\cdot02)}{B}$$

$$(オ) \text{ 将来にわたる債務} = \frac{\text{将来にわたる債務}(33\cdot85\cdot09+37\cdot05\cdot02)}{B}$$

[第3表 構成比]

① 歳入構成比

$$(ア) \text{各歳入項目} = \frac{\text{各歳入項目}}{\text{歳入総額(05・33・01)}} \times 100$$

以下、歳入総額… C とする。

$$(イ) \text{一般財源} = \frac{\begin{aligned} &\text{一般財源(狭義)[地方税(05・01・01)+地方譲与税(05・02・01)+利子割交付金(05・03・01)} \\ &+\text{配当割交付金(05・04・01)+株式等譲渡所得割交付金(05・05・01)+分離課税所得割(05・06・01)} \\ &+\text{道府県民税所得割臨時交付金(05・07・01)+地方消費税交付金(05・08・01)} \\ &+\text{ゴルフ場利用税交付金(05・09・01)+特別地方消費税交付金(05・10・01)} \\ &+\text{軽油引取税・自動車取得税交付金(05・11・01)+地方特例交付金(05・12・01)+地方交付税(05・13・01)} \end{aligned}}{C} \times 100$$

$$(ウ) \text{経常一般財源} = \frac{\text{経常一般財源等(05・33・05)}}{C} \times 100$$

$$(エ) \text{特定財源} = \frac{\text{特定財源(05・33・02+05・33・04)}}{C} \times 100$$

$$(オ) \text{経常的収入} = \frac{\text{経常的収入(05・33・04+05・33・05)}}{C} \times 100$$

$$(カ) \text{自主財源} = \frac{\begin{aligned} &\text{自主財源[地方税(04・01・01)+分担金及び負担金(04・01・25)+使用料(04・01・29)+手数料(04・01・37)} \\ &+\text{財産収入(04・02・20)+寄付金(04・02・26)+繰入金(04・02・30)+純繰越金(04・02・32)+諸収入(04・02・34)} \\ &-\text{受託事業収入(04・02・39)-収益事業収入(04・02・42)-一部事務組合配分金(04・02・44)} \end{aligned}}{C} \times 100$$

② 目的別歳出構成比

$$\text{各目的別歳出項目} = \frac{\text{各目的別歳出項目}}{\text{歳出総額(14・23・01)}} \times 100$$

以下、歳出総額… D とする。

③ 性質別歳出構成比

$$(ア) \text{各性質別歳出項目} = \frac{\text{各性質別歳出項目}}{D} \times 100$$

$$(イ) \text{義務的経費} = \frac{\text{義務的経費}[(\text{人件費(14・01・01)+扶助費(14・05・01)+公債費(14・09・01)})]}{D} \times 100$$

$$(ウ) \text{経常的繰出金} = \frac{\text{経常的繰出金(14・15・04+14・15・05)}}{D} \times 100$$

$$(エ) \text{経常的経費} = \frac{\begin{aligned} &\text{経常的経費[人件費(14・01・01)+扶助費(14・05・01)+公債費(14・09・01)+物件費(14・03・01)} \\ &+\text{維持補修費(14・04・01)+補助費等(14・06・01)+投資及び出資金・貸付金(14・14・04+14・14・05)} \\ &+\text{繰出金(14・15・04+14・15・05)} \end{aligned}}{D} \times 100$$

$$(オ) \text{投資的経費} = \frac{\text{投資的経費(14・17・01)}}{D} \times 100$$

$$(カ) \text{普通建設事業費のうち補助事業費} = \frac{\text{補助事業費(13・13・01+13・15・01+13・19・01)}}{D} \times 100$$

(国直轄事業負担金、受託事業費のうち補助事業費を含む)

$$(キ) \text{普通建設事業費のうち単独事業費} = \frac{\text{単独事業費(13・14・01+13・16・01+13・17・01+13・20・01)}}{D} \times 100$$

(県営事業負担金、同級他団体施行事業負担金、受託事業費のうち単独事業費を含む)

[第4表 対前年度増減率]

① 歳入増減率

$$(ア) \text{各歳入項目} = \left(\frac{\text{30年度各歳入項目歳入額}}{\text{29年度各歳入項目歳入額}} - 1 \right) \times 100$$

$$(イ) \text{一般財源} = \left(\frac{\begin{aligned} &\text{30年度一般財源(狭義)[05・01・01+05・02・01+05・03・01+05・04・01+05・05・01+05・06・01} \\ &+\text{05・07・01+05・08・01+05・09・01+05・10・01+05・11・01+05・12・01+05・13・01]} \\ &+\text{S05・07・01+S05・08・01+S05・09・01+S05・10・01+S05・11・01} \end{aligned}}{\text{29年度一般財源(狭義)[S05・01・01+S05・02・01+S05・03・01+S05・04・01+S05・05・01+S05・06・01}} - 1 \right) \times 100$$

$$(ウ) \text{経常一般財源} = \left(\frac{\text{30年度経常一般財源等(05・33・05)}}{\text{29年度経常一般財源等(S05・33・05)}} - 1 \right) \times 100$$

$$(エ) \text{経常的収入} = \left(\frac{\text{30年度経常的収入(05・33・04+05・33・05)}}{\text{29年度経常的収入(S05・33・04+S05・33・05)}} - 1 \right) \times 100$$

$$(オ) \text{臨時的収入} = \left(\frac{\text{30年度臨時的収入(05・33・02+05・33・03)}}{\text{29年度臨時的収入(S05・33・02+S05・33・03)}} - 1 \right) \times 100$$

$$(カ) \text{自主財源} = \left(\frac{\begin{aligned} &\text{30年度自主財源(04・01・01+04・01・25+04・01・29+04・01・37+04・02・20+04・02・26} \\ &+\text{04・02・30+04・02・32+04・02・34-04・02・39-04・02・42-04・02・44)} \\ &+\text{S04・02・27+S04・02・29+S04・02・31-S04・02・36-S04・02・39-S04・02・41} \end{aligned}}{\text{29年度自主財源(S04・01・01+S04・01・25+S04・01・29+S04・01・37+S04・02・20+S04・02・26}} - 1 \right) \times 100$$

$$(キ) \text{ 依存財源} = \left(\frac{30\text{年度依存財源(歳入総額-自主財源)}}{29\text{年度依存財源(歳入総額-自主財源)}} - 1 \right) \times 100$$

② 歳出増減率

$$(ア) \text{ 各目的別歳出増減率} = \left(\frac{30\text{年度各目的別歳出項目}}{29\text{年度各目的別歳出項目}} - 1 \right) \times 100$$

$$(イ) \text{ 各性質別歳出増減率} = \left(\frac{30\text{年度各性質別歳出項目}}{29\text{年度各性質別歳出項目}} - 1 \right) \times 100$$

$$(ウ) \text{ 義務的経費} = \left(\frac{30\text{年度義務的経費}(14\cdot 01\cdot 01+14\cdot 05\cdot 01+14\cdot 09\cdot 01)}{29\text{年度義務的経費}(S14\cdot 01\cdot 01+S14\cdot 05\cdot 01+S14\cdot 09\cdot 01)} - 1 \right) \times 100$$

$$(エ) \text{ 経常的経費} = \left(\frac{30\text{年度経常的経費}[14\cdot 01\cdot 01+14\cdot 05\cdot 01+14\cdot 09\cdot 01+14\cdot 03\cdot 01+14\cdot 04\cdot 01+14\cdot 06\cdot 01]}{29\text{年度経常的経費}[S14\cdot 01\cdot 01+S14\cdot 05\cdot 01+S14\cdot 09\cdot 01+S14\cdot 03\cdot 01+S14\cdot 04\cdot 01+S14\cdot 06\cdot 01]} \right. \\ \left. + \frac{(14\cdot 14\cdot 04+14\cdot 14\cdot 05)+(14\cdot 15\cdot 04+14\cdot 15\cdot 05)}{(S14\cdot 14\cdot 04+S14\cdot 14\cdot 05)+(S14\cdot 15\cdot 04+S14\cdot 15\cdot 05)} \right) - 1 \times 100$$

$$(オ) \text{ 投資的経費} = \left(\frac{30\text{年度投資的経費}(14\cdot 17\cdot 01)}{29\text{年度投資的経費}(S14\cdot 17\cdot 01)} - 1 \right) \times 100$$

$$(カ) \text{ 普通建設事業費のうち補助事業費} = \left(\frac{30\text{年度補助事業費}(13\cdot 13\cdot 01+13\cdot 15\cdot 01+13\cdot 19\cdot 01)}{29\text{年度補助事業費}(S13\cdot 13\cdot 01+S13\cdot 15\cdot 01+S13\cdot 19\cdot 01)} - 1 \right) \times 100$$

$$(キ) \text{ 普通建設事業費のうち単独事業費} = \left(\frac{30\text{年度単独事業費}(13\cdot 14\cdot 01+13\cdot 16\cdot 01+13\cdot 17\cdot 01+13\cdot 20\cdot 01)}{29\text{年度単独事業費}(S13\cdot 14\cdot 01+S13\cdot 16\cdot 01+S13\cdot 17\cdot 01+S13\cdot 20\cdot 01)} - 1 \right) \times 100$$

③ その他

$$(ア) \text{ 積立金現在高増減率} = \left(\frac{30\text{年度積立金現在高}(29\cdot 06\cdot 04)}{29\text{年度積立金現在高}(S29\cdot 06\cdot 04)} - 1 \right) \times 100$$

$$(イ) \text{ 財政調整基金現在高増減率} = \left(\frac{30\text{年度財政調整基金}(29\cdot 06\cdot 01)}{29\text{年度財政調整基金}(S29\cdot 06\cdot 01)} - 1 \right) \times 100$$

$$(ウ) \text{ 地方債現在高増減率} = \left(\frac{30\text{年度地方債現在高}(33\cdot 85\cdot 09)}{29\text{年度地方債現在高}(S33\cdot 74\cdot 09)} - 1 \right) \times 100$$

$$(エ) \text{ 債務負担行為未払残高} = \left(\frac{30\text{年度債務負担行為翌年度以降支出予定額}(37\cdot 05\cdot 02)}{29\text{年度債務負担行為翌年度以降支出予定額}(S37\cdot 05\cdot 02)} - 1 \right) \times 100$$

$$(オ) \text{ 将来にわたる債務} = \left(\frac{30\text{年度将来にわたる債務}(33\cdot 85\cdot 09+37\cdot 05\cdot 02)}{29\text{年度将来にわたる債務}(S33\cdot 74\cdot 09+S37\cdot 05\cdot 02)} - 1 \right) \times 100$$

[第5表 各種指標]

① 歳入総額に対する割合

$$(ア) \text{ 積立金現在高} = \frac{\text{積立金現在高}(29\cdot 06\cdot 04)}{\text{歳入総額}(05\cdot 33\cdot 01)} \times 100$$

$$(イ) \text{ 財政調整基金現在高} = \frac{\text{財政調整基金現在高}(29\cdot 06\cdot 01)}{\text{歳入総額}(05\cdot 31\cdot 01)} \times 100$$

$$(ウ) \text{ 地方債現在高} = \frac{\text{地方債現在高}(33\cdot 85\cdot 09)}{\text{歳入総額}(05\cdot 33\cdot 01)} \times 100$$

$$(エ) \text{ 債務負担行為未払残高} = \frac{\text{債務負担行為翌年度以降支出予定額}(37\cdot 05\cdot 02)}{\text{歳入総額}(05\cdot 33\cdot 01)} \times 100$$

$$(オ) \text{ 将来にわたる債務} = \frac{\text{将来にわたる債務}(33\cdot 85\cdot 09+37\cdot 05\cdot 02)}{\text{歳入総額}(05\cdot 33\cdot 01)} \times 100$$

② 施設の管理費

$$(ア) \text{ 人件費対人件費総額比} = \frac{\text{施設の年間所要経常経費のうち人件費}(46\cdot 01\cdot 01+46\cdot 02\cdot 01+46\cdot 03\cdot 01+46\cdot 04\cdot 01} \\ + 46\cdot 05\cdot 01+46\cdot 06\cdot 01+46\cdot 07\cdot 01+46\cdot 08\cdot 01+46\cdot 09\cdot 01+46\cdot 10\cdot 01+46\cdot 14\cdot 01} \\ + 46\cdot 15\cdot 01+46\cdot 16\cdot 01+46\cdot 17\cdot 01+46\cdot 18\cdot 01+46\cdot 19\cdot 01+46\cdot 20\cdot 01)}{\text{人件費総額}(14\cdot 01\cdot 01)} \times 100$$

$$(イ) \text{ 経常経費対経常的経費総額} = \frac{\text{施設の年間所要経常経費}(46\cdot 01\cdot 06+46\cdot 02\cdot 06+46\cdot 03\cdot 06+46\cdot 04\cdot 06+46\cdot 05\cdot 06} \\ + 46\cdot 06\cdot 06+46\cdot 07\cdot 06+46\cdot 08\cdot 06+46\cdot 09\cdot 06+46\cdot 10\cdot 06+46\cdot 14\cdot 06+46\cdot 15\cdot 06} \\ + 46\cdot 16\cdot 06+46\cdot 17\cdot 06+46\cdot 18\cdot 06+46\cdot 19\cdot 06+46\cdot 20\cdot 06)}{\text{経常的経費}[人件費}(14\cdot 01\cdot 01)+\text{扶助費}(14\cdot 05\cdot 01)+\text{公債費}(14\cdot 09\cdot 01)} \\ + \text{物件費}(14\cdot 03\cdot 01)+\text{維持補修費}(14\cdot 04\cdot 01)+\text{補助費等}(14\cdot 06\cdot 01)} \\ + \text{投資及び出資金}\cdot \text{貸付金}(14\cdot 14\cdot 04+14\cdot 14\cdot 05)+\text{繰出金}(14\cdot 15\cdot 04+14\cdot 15\cdot 05)]} \times 100$$

$$\textcircled{3} \text{ 人口千人当たり職員数} = \frac{\text{職員数(地方公務員給与実態調査)(注)}}{\text{平成31年1月1日現在住民基本台帳人口}} \times 1000$$

(注)職員数=平成30年度地方公務員給与実態調<12(ロ)(1)>+<12ノ(1)>+<12オ(1)>+<12ク(1)>+<12ヤ(1)>+<12マ(1)>+<12フ(1)>

④ 職員1人当たりの指標

$$(ア) \text{ 給料} = \frac{\text{給料}(15\cdot 01\cdot 11)}{\text{職員数(地方公務員給与実態調査)(注)}}$$

(注)職員数=平成30年度地方公務員給与実態調<12(ロ)(1)>+<12ノ(1)>+<12オ(1)>+<12ク(1)>+<12ヤ(1)>+<12マ(1)>+<12フ(1)>以下、職員数… E とする。

- (イ) 時間外勤務手当 = $\frac{\text{時間外勤務手当(15・01・19)}}{E}$
- (ウ) 期末勤勉手当 = $\frac{\text{期末勤勉手当(15・01・24)}}{E}$
- (エ) 旅費 = $\frac{\text{旅費(89・01・02)}}{E}$
- (オ) 需用費 = $\frac{\text{需用費(89・01・04)}}{E}$
- ⑤ 人件費比率
- (ア) 地域手当支給率 = $\frac{\text{地域手当(15・01・13)}}{\text{給料(15・01・11)+扶養手当(15・01・12)+管理職手当(15・01・23)}} \times 100$
- (イ) 時間外勤務手当支給率 = $\frac{\text{時間外勤務手当(15・01・19)}}{\text{給料(15・01・11)+地域手当(15・01・13)}} \times 100$
- (ウ) 管理職手当支給率 = $\frac{\text{管理職手当(15・01・23)}}{\text{給料(15・01・11)}} \times 100$
- (エ) 特殊勤務手当支給率 = $\frac{\text{特殊勤務手当(15・01・18)}}{\text{給料(15・01・11)}} \times 100$
- (オ) 期末勤勉手当支給率 = $\frac{\text{期末勤勉手当(15・01・24)}}{\text{基本給(15・01・10) \div 12}}$
- (カ) 共済負担率 = $\frac{\text{地方公務員共済組合等負担金(15・01・33)}}{\text{給料(15・01・11)}} \times 100$
- (キ) 職員互助会補助率 = $\frac{\text{職員互助会補助金(15・01・41)}}{\text{給料(15・01・11)}} \times 100$
- (ク) 事業費支弁人件費率 = $\frac{\text{事業費支弁人件費(15・01・51)}}{\text{人件費(14・01・01)}} \times 100$
- ⑥ 市町村税に対する人件費 = $\frac{\text{人件費(14・01・01)}}{\text{市町村税(05・01・01)}} \times 100$
- ⑦ 地方債新規借入額に対する償還額 = $\frac{\text{30年度地方債償還額(33・85・06)}}{\text{30年度地方債借入額(33・85・02)}} \times 100$
- ⑧ 扶助費構成比
- (ア) 社会福祉費 = $\frac{\text{社会福祉費(47・21・01)}}{\text{扶助費総額(47・30・01)}} \times 100$
- (イ) 老人福祉費 = $\frac{\text{老人福祉費(47・22・01)}}{\text{扶助費総額(47・30・01)}} \times 100$
- (ウ) 児童福祉費 = $\frac{\text{児童福祉費(47・23・01)}}{\text{扶助費総額(47・30・01)}} \times 100$
- (エ) 生活保護費 = $\frac{\text{生活保護費(47・24・01)}}{\text{扶助費総額(47・30・01)}} \times 100$
- ⑨ 補助費等構成比
- (ア) 一部事務組合負担金 = $\frac{\text{一部事務組合に対する負担金・寄附金(19・01・20)}}{\text{補助費等総額(19・01・26)}} \times 100$
- (イ) 補助交付金 = $\frac{\text{補助交付金(19・01・23)}}{\text{補助費等総額(19・01・26)}} \times 100$
- ⑩ 普通建設事業費充当財源構成比
- (ア) 国庫支出金 = $\frac{\text{国庫支出金(13・12・02)}}{\text{普通建設事業費(13・12・01)}} \times 100$
- (イ) 県支出金 = $\frac{\text{県支出金(13・12・03)}}{\text{普通建設事業費(13・12・01)}} \times 100$
- (ウ) 地方債 = $\frac{\text{地方債(13・12・10)}}{\text{普通建設事業費(13・12・01)}} \times 100$
- (エ) 一般財源等 = $\frac{\text{一般財源等(13・12・11)}}{\text{普通建設事業費(13・12・01)}} \times 100$